

# 公明党議員団視察報告書

2016年10月28日

貝塚市議会議長 中山 敏数 殿

参加者 北尾 修  
中山 敏数  
前園 隆博

## 【視察先】

### 1. 福岡県久留米市

日時 10月24日(月) 14時30分～16時

場所 久留米市役所

内容 セーフコミュニティ国際認証について

セーフコミュニティとは、WHO（世界保健機関）セーフコミュニティ協働センターが推進する「けがや事故などは偶然の結果ではなく、予防することができる」という理念に基づいて、予防に重点を置き、地域社会全体で進める安全安心なまちづくりの取組みや、それを行う地域のことです。WHOセーフコミュニティ協働センターによる審査を受け、認証されるとセーフコミュニティの国際認証を取得できます。

この認証取得を目指す取組みが、世界の都市や地域または日本国内の自治体で広がりつつあり、久留米市では平成23年7月にセーフコミュニティの取組み開始を宣言し、平成25年12月に世界で329番目、国内で9番目に国際認証を取得しました。

セーフコミュニティの特徴としては、様々な統計データやアンケートなどを活用して、現状把握・課題分析を行い、予防策を講じ、その効果を検証し、取組みの更なる改善を図っていきます。その効果としては、①けがや事故の減少により、安全安心が向上する②安全安心に向けて市民総ぐるみで、一体的に取り組むことで、人とのつながりが強化される③統計データ等を用いて客観的な評価・検証をすることで取組み効果が向上する④国際基準に基づく安全安心の取組みを行う地域としてイメージアップにつながる、などが見込めます。

WHOセーフコミュニティ協働センターが設ける7つの指標に基づく取組みを行うコミュニティは、「セーフコミュニティ」として認証を受けることができます。分野の垣根を越えた協働による推進組織分野の垣根を越え、地域の安全・安心を推進するための協働組織が設置されている。

#### 1. 全ての年齢・性別・環境・状況をカバーする長期的・継続的なプログラム

全ての年齢・性別・環境・状況をカバーする長期的かつ継続的な施策を実施している。

#### 2. ハイリスクの集団と環境に着目し、弱者グループを対象としたプログラム

ハイリスクのグループや環境に焦点を当てた施策、及び弱者グループを対象とした安全性を高めるための施策を実施している。

3. あらゆる入手可能な「根拠」に基づいたプログラム  
それぞれの年齢や環境に対して、根拠に基づく施策を実施している。
4. 外傷の頻度と原因を記録するプログラム  
外傷等が発生する頻度・原因を、継続的に記録する仕組みがある。
5. プログラムの内容・過程・変化による効果を測定・評価  
取り組みの効果や影響を、測定・評価するための仕組みがある。
6. 国内外のセーフコミュニティ推進ネットワークへの継続的参加  
国内及び国際的なセーフコミュニティのネットワークに継続的に参加する。

安全や健康に関する課題・目標は、それぞれの地域によってさまざまです。課題や目標について、到達すべき絶対的基準や決められたプログラムではなく、それぞれの地域が、地域の実情に応じて重点課題を設定し、地域での活用可能な資源を使って取り組むことが原則とされています。セーフコミュニティに取り組むにあたって、中核となる「久留米市セーフコミュニティ推進協議会」や、具体的な対策に取り組む「対策委員会」、事故や外傷などのデータ収集・分析を専門に行う「外傷等動向調査委員会」を設置しました。

また市内の組織として、「久留米市セーフコミュニティ推進本部会議」や「久留米市セーフコミュニティ推進調整会議」を設置しました。

そして、「交通安全」「子どもの安全」「高齢者の安全」「犯罪・暴力の予防」「自殺予防」「防災」の6つの重点取り組み分野を設定し、各分野における具体的な課題や対策について協議・検討を行う、8つの対策委員会（交通安全・児童虐待防止・学校安全・高齢者の安全・防犯・DV防止・自殺予防・防災）を設置しました。

対策委員会はセーフコミュニティ推進協議会の実働組織として位置付け、重点取り組み分野に関係する主要な団体やNPO、市の担当部局等の実務者などで組織され、重点取り組み分野の課題解決に向けて具体的な取り組みの進め方や既存取り組みの改善、新たな方策の検討を行います。これによって、安全安心の向上を図るため様々な取り組みが行われています。

これらの活動を活かしながら、「予防」に重点を置き、地域の実情にあった工夫や連携を取り入れ、安全安心の向上を目指してまいります。

感想：日本国内で取り組んでいる自治体はまだまだ少ないものの、これから広がっていくと思われれます。大阪では松原市が認証を受けており、泉大津市が認証予定です。貝塚市も市民との協働で安全に関して様々な取り組みをしていますが、さらに強力で推しめるためにもセーフコミュニティ国際認証の取得を検討すべきではないかと思えます。

## 2. 佐賀県伊万里市

日時 10月25日(火) 10時～12時

場所 伊万里市民図書館

内容 伊万里市民図書館について

- 建設時の目標 「伊万里をつくり 市民とともにそだつ 市民の図書館」
- 開館 平成7年7月7日(旧市立図書館 昭和29年4月)
- 施設概要 敷地面積 7,692.14 m<sup>2</sup> 建築面積 4,053.96 m<sup>2</sup> 延床面積 4,374.51 m<sup>2</sup>
- 構造 鉄筋コンクリート(一部鉄骨) 平屋建、一部3階



- 工事概要 総事業費 23億6,480万円
- 職員体制 平成28年度現在 18名体制(司書12名)
- 新世紀の図書館を目指して
  - 1) 自由で公平な情報を提供し、市民の知的自由をまもる図書館
  - 2) 将来の伊万里をつくる子どもたちに夢をそだてていく図書館
  - 3) 本のある出会いの広場、文化を育むオアシスとしての図書館
  - 4) 全ての市民に開かれた市民のライフスタイルを高める図書館
- 蔵書収容能力
 

最大46万冊 蔵書点数36万点
- 予算関係 平成28年度 1億3千3百万円 資料費 1千8百万円

#### 目指している伊万里市民図書館の姿

- 図書館サービスのライフステージごとの目標
  - 1) 幼い子らにはいのちをはぐくむ絵本を
  - 2) 成長期の子どもには心の糧となる本を
  - 3) 学ぶ若者には知識欲を満足させる本を
  - 4) 社会人には生活や仕事に役に立つ本を
  - 5) お年寄りには豊かな人生を振り返る本を
- 教育施設としての図書館のミッション
 

すべての人の成長(自立・自律)と成熟、自己実現を支える教育施設こそが図書館  
図書館は、ひとづくり・まちづくりを支え成長する施設

伊万里市民図書館は滞在型図書館で、たくさんの本、たくさんの人と出会える場を提供していま

す。その名称通り「市民」の存在が大きく、市民目線、市民参加が反映された設計となっています。直営は市民が二人三脚で運営を支えています。「図書館づくりをすすめる会」は開館前に解散し、95年9月に「図書館フレンズいまり」に移行。現在の会員数は約400人。入会資格は「伊万里市民図書館を愛する人」で年会費1000円。

活動内容は

- 1) 後援会などの企画、実施
- 2) 図書館の支援、及び協議、提言
- 3) 図書館ボランティア活動の支援
- 4) 広報・PR活動
- 5) 他の図書館友の会との連携
- 6) その他



感想：伊万里市民図書館設置条例の第一条（設置及び目的）は

「伊万里市は、すべての市民の知的自由を確保し、文化的かつ民主的な地方自治の発展のため、自由で公平な資料と情報を提供する生涯学習の拠点として、伊万里図書館を設置する」とあります。本市の条例にはこのような文言はありませんが、伊万里市の図書館づくりの指針は明確になっています。また、市の予算の額から見ても本市よりも充実しています。今後、本市の図書館について、もっと充実できるように検討していきたいと思います。

以上